

平成に入ってから、65歳以上の人口は約3倍になり、まもなく4人に1人が65歳以上となります。生産年齢人口も右肩下がりになっており、様々な施策を通じて生産年齢人口を増やす方法を考えていく必要があります。子育て支援の充実はこうした面からも有効な施策と考えます。

近年、子育て支援策といえば、「待機児童対策」と言うほどの状況が長く続いています。国でも子育て支援と名の付く施策の多くは女性の就労を支援するものです。この傾向は、川越市の子育て支援計画でも同様です。一方で、その計画の中のデータからは他のニーズの存在が・・・。

**皆さんは、子育て支援と聞いてどんな支援を思い浮かべますか？
待機児童の解消？ 援助金の増額？ 本当に多くの方が求めているのは？**

保育園の整備もたしかに必要な政策ですが・・・

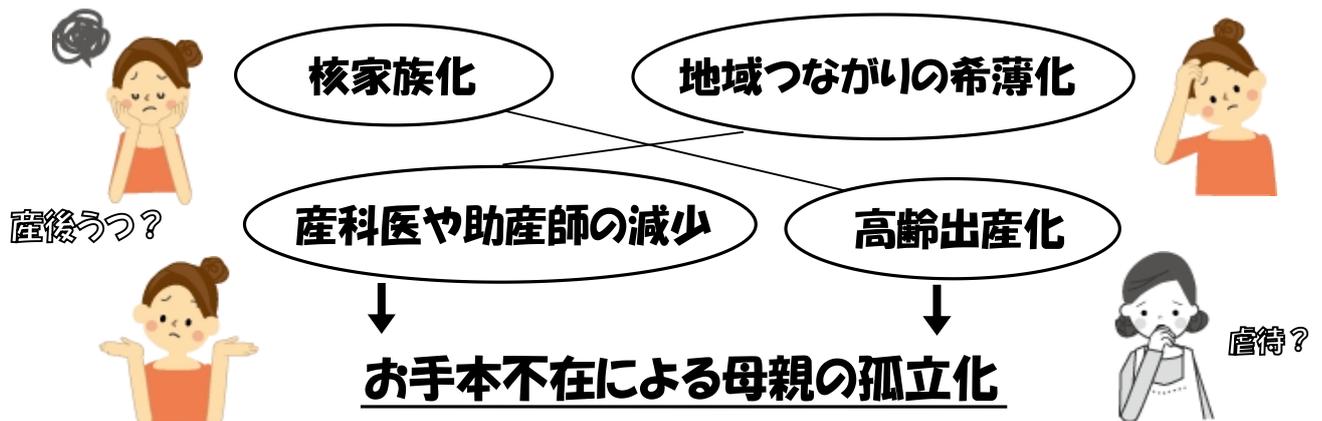
保育園を利用も希望もしていない家庭は

平成27年3月川越市子ども子育て支援計画から。

**0歳児を持つ家庭の約8割
1・2歳児を持つ家庭の約7割**



それでは、大多数の方が必要としている子育て支援とは・・・



妊娠出産子育てに関わる産婦の不安や負担が増えている

核家族化や少子化の現代では、自身の子どもで、初めて乳児に接する親も少なくありません。子育て経験者が身近に居らず、相談相手がない、アドバイスや支援が受けにくい環境にいる方が増えています。また、今や5人に1人が高齢出産（初産が35歳以上）の時代、不妊治療や高齢出産への不安、産後の体の回復にも時間がかかる中、出産施設の減少や、産科医や助産師不足、病院システムの分業化もあり、妊娠・出産・産後までの継続的なケアが難しくなっています。

Q(川口)、妊娠期から子育て期において最もケアが必要な時期はいつだと考えているか？

A(市)、出産から3ヶ月くらいまでが最もケアが必要だと考えている。



ところが・・・

医学的にも安静が必要とされるこの期間に、川越市が行う特段の支援はありません。また、川越市では唯一、生後2ヶ月までの母子と関われる機会となっている新生児訪問指導は、法律の定めによって実施されているものですが、その訪問率は40%台にとどまっています。そこで、提言！➤